



【感染症だより】

～ヘルパンギーナについて～

ヘルパンギーナは、毎年夏になると流行する夏風邪の一種です。都内では今年7月17日の時点で患者数が都の警報基準を超えて大流行となっています。ヘルパンギーナは、手足口病、プール熱などと同じようにウイルスによる感染症で、特効薬や予防接種はありません。飛沫感染しますので、予防法は風邪と同じく手洗いうがい、マスクなどです。潜伏期は数日～1週間程度、症状は38度以上の突然の発熱、咽頭に出来る水泡、鼻水、くしゃみなどです。また、咽の水泡が痛くて飲食できないことがあります。夏の暑さに加えて高熱の期間は、特に脱水症を起こしやすいですので、咽にしみないような経口補水液（OS-1やアクアライト）やゼリーの補給をしましょう。イオン飲料が嫌いのお子様には、みそ汁の上澄みの出汁やコンソメスープを飲ませるのも良いでしょう。通常の経過であれば2-4日で解熱傾向となり、自然に軽快します。主な原因ウイルスは、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、エンテロウイルスなどで、様々なウイルスによって同様の症状が出ます。毎年、流行するウイルスが異なるので、一度かかってもまたかかってしまいます。

主に保育園や幼稚園で流行しますが、まれに成人でも罹患することがありますので、予防に努めましょう。

表：7月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

| | 感染症 | 患者数 |
|---|------------|-----|
| 1 | 胃腸炎 | 54 |
| 2 | ヘルパンギーナ | 27 |
| 3 | 溶連菌 | 24 |
| 4 | 突発性発疹 | 6 |
| 5 | 水ぼうそう | 4 |
| 6 | 肺炎 | 3 |
| 7 | アデノウイルス咽頭炎 | 1 |

文責： 清水マリ子

